

令和3年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ③子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ

- ◆ 子ども・子育て支援制度について、知らなかった事業がいくつもありました。様々な家庭環境がありますが、子どもが安全安心に生活していけるように考えられているのだと分かりました。私が働いている児童クラブでは、月に1回放課後子供教室を行っています。クラブ以外の子どもたちもとても楽しみにしており、こういった活動が増えることで、放課後に充実した時間を過ごすことができるのではと思いました。
- ◆ 出生率の低下に伴って少子化が進み、地域のつながりの希薄化もあり、子育て環境は厳しい状態です。放課後児童クラブの運営に関する事業や児童福祉施策を理解し、次代を担う児童の健全な育成を支援しつつ、女性の就業率の上昇と女性の活躍に期待したいです。東京都中野区の放課後子ども総合プランモデルケースは、学校敷地内にあり、空き教室も活用でき、移動の時間や安全性を考えると、とても効率的だと思いました。
- ◆ 子ども家庭福祉施策、子ども・子育て支援新制度の内容を理解し、放課後児童健全育成事業との関連を理解することで、児童クラブが重要な位置付けにあるということを学んだ。事業が充実することで、利用する子どもたちの環境がより良く整っていくと感じた。新・放課後子ども総合プランに掲げる目標の一端を担う役割を持っている支援員として、子どもの最善の利益が保障されるように、学んだことを役立てていきたい。
- ◆ 少子化が進む中で、産み育てたいと思っていっても、働きながら育てるための環境が整っていなければ、不安や孤独感、ストレスによるうつなどが起こり得る。そうならないためにも、子どもが安全に過ごせて親が安心して仕事ができるよう、現代社会における新しい仕組みを築かなければならないと知った。私たちの仕事はその一部であり、子どもが健やかに成長できる環境づくりを心がけ、保護者の意見に耳を傾けて、支えていけるよう、取り組んでいきたいと思う。
- ◆ 放課後児童健全育成事業の目的は、近年における女性の就業割合の高まりや核家族化の進行など、児童と家庭を取り巻く環境の変化を踏まえ、放課後や週末等に児童が安心して生活できる居場所を確保するとともに、次代を担う児童の健全な育成を支援することです。放課後子ども総合プランモデルケースの「キッズ・プラザ桃花」は「動」、「静」の部屋を分けて、安全安心の空間を確保して過ごすことができ、効果的で関心しました。